

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14031

建築物名称	田園調布大学(仮称)大学校舎建替プロジェクト
建築主	学校法人調布学園 理事長 西村 昭
建築物の所在地	川崎市麻生区東百合丘3丁目7530他
設計者氏名、建築士事務所名	三浦 健 株式会社久米設計 一級建築士事務所
工事種別	増築
床面積の合計	5,901.85m ²
用途	学校
構造	鉄筋コンクリート一部鉄骨造
階数	地上5階、地下1階
工事完了年月	平成29年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE川崎2011年版改訂版Ver.2 (BPIBE対応) 使用評価ソフト: CASBEE評価ソフト (BPIBE対応) CASBEE-2011-03-10 ©2011 CASBEE-2011-03-10

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	田園調布学園大学(仮称)大学校舎建替プロジェクト	階数	地上5階、地下1階
建設地	川崎市麻生区東百合丘3丁目7530他	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、準住居地域、準防火地域	平均居住人員	600人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年1月 竣工	評価の実施日	
敷地面積	22,945 m ²	作成者	
建築面積	1,452 m ²	確認日	
延床面積	5,902 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 94%
③上記+②以外の 94%
④上記+ 94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.3

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

重点項目についての環境配慮概要

内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。	実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	3.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物資源の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針を15%以上上回る緑化率。 川崎市景観計画に即した計画としている。 建築設備に伴う排熱は建築物の高い位置からの放出とする。	2.7/4.3	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.4
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.3 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.2 屋光制御	Low-eガラスを採用。 トップライトを設置。 ブラインドによる屋光制御を行っている。	0.6/0.9	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物資源の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針を15%以上上回る緑化率。 建築設備に伴う排熱は建築物の高い位置からの放出とする。	1.5/2.3	3.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	Low-eガラスを採用。 トップライトを設置。 LED照明を採用。	4.0/5.0	4.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 フロン・ハロンの回避	自動水洗、節水型便器、擬音装置を採用。 可動間仕切、OAフロアを採用。	3.0/4.6	3.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	耐用年数を考慮し、使用材料を選定した。	0.3/0.5	2.7
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	自動水洗、節水型便器、擬音装置の採用。 可動間仕切、OAフロアを採用。	2.7/3.9	3.4
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	雨水貯留槽設置により、雨水流出を抑制している。	0.3/0.4	3.6
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物資源の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針を15%以上上回る緑化率。 建築設備に伴う排熱は建築物の高い位置からの放出とする。	1.5/2.3	3.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	Low-eガラスを採用。 トップライトを設置。 LED照明を採用。	4.0/5.0	4.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要

内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。	実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の再利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.8/1.4	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	Low-eガラスを採用。 トップライトを設置。 LED照明を採用。	4.0/5.0	4.0

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

OASBEE川崎2011年版追加版Ver.2(BPI/BEI対応)				欄に数値またはコメントを記入				14031	
スコアシート 実施設計段階									
配慮項目	G	W	R	H	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									3.3
Q1 室内環境									3.2
1 音環境					3.2	0.15			3.2
1.1 騒音					3.0	0.40			
1 室内騒音レベル					3.0	1.00	3.0		
2 設備騒音対策									
1.2 遮音					3.6	0.40			
1 開口部遮音性能					5.0	0.30	3.0		
2 界壁遮音性能					3.0	0.30	3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	0.20	3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	0.20	3.0		
1.3 吸音					3.0	0.20	3.0		
2 温熱環境					3.0	0.35			3.0
2.1 室温制御					3.0	0.50			
1 室温					3.0	0.60	3.0		
2 負荷変動・追従制御性									
3 外皮性能		W			3.0	0.40	3.0		
4 ゾーン別制御性					3.0				
5 温度・湿度制御									
6 個別制御									
7 時間外空調に対する配慮									
8 監視システム									
2.2 湿度制御					3.0	0.20	3.0		
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0		
3 光・視環境					3.2	0.25			3.2
3.1 昼光利用					3.4	0.30			
1 昼光率					3.0	0.60	3.0		
2 方位別開口							3.0		
3 昼光利用設備		W			4.0	0.40	3.0		
3.2 グレア対策					3.0	0.30			
1 照明器具のグレア									
2 昼光制御		W			3.0	1.00	3.0		
3 映り込み対策									
3.3 照度					4.0	0.15	3.0		
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0		
4 空気質環境					3.7	0.25			3.7
4.1 発生源対策					4.0	0.50			
1 化学汚染物質					4.0	1.00	3.0		
2 アスベスト対策									
3 ダニ・カビ等									
4 レジオネラ対策									
4.2 換気					3.0	0.30			
1 換気量					3.0	0.33	3.0		
2 自然換気性能					3.0	0.33	3.0		
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.33	3.0		
4 給気計画									
4.3 運用管理					4.0	0.20			
1 CO ₂ の監視					3.0	0.50			
2 喫煙の制御					5.0	0.50			

Q2 サービス性能								3.3
1 機能性								3.7
1.1 機能性・使いやすさ								3.0
	1	広さ・収納性						3.0
	2	高度情報通信設備対応						3.0
	3	バリアフリー計画						1.00
1.2 心理性・快適性								4.0
	1	広さ感・景観						3.0
	2	リフレッシュスペース						3.0
	3	内装計画						5.0
1.3 維持管理								4.5
	1	維持管理に配慮した設計						5.0
	2	維持管理用機能の確保						4.0
	3	衛生管理業務						-
2 耐用性・信頼性								3.1
2.1 耐震・免震								3.8
	1	耐震性						4.0
	2	免震・制振性能						3.0
2.2 部品・部材の耐用年数								2.7
	1	躯体材料の耐用年数		R				3.0
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R				2.0
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R				3.0
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R				3.0
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R				3.0
	6	主要設備機器の更新必要間隔		R				3.0
2.4 信頼性								2.2
	1	空調・換気設備						3.0
	2	給排水・衛生設備						1.0
	3	電気設備						1.0
	4	機械・配管支持方法						3.0
	5	通信・情報設備						3.0
3 対応性・更新性								3.0
3.1 空間のゆとり								3.0
	1	階高のゆとり						3.0
	2	空間の形状・自由さ						3.0
3.2 荷重のゆとり								3.0
3.3 設備の更新性								3.0
	1	空調配管の更新性						3.0
	2	給排水管の更新性						3.0
	3	電気配線の更新性						3.0
	4	通信配線の更新性						3.0
	5	設備機器の更新性						3.0
	6	バックアップスペース						3.0
Q3 室外環境(敷地内)								3.3
1 生物環境の保全と創出				G	W		H	3.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								4.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上						4.0
	3.2	敷地内温熱環境の向上	G	W		H		4.0

LR 建築物の環境負荷低減性										3.5				
LR1 エネルギー										3.9				
1 建物の熱負荷抑制				W		H			PAL低減率≥35%	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用										3.5	0.20	-	-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用				W		H			トップライトを設け、自然光を利用。	4.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用				W		H				3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化				W		H				3.9	0.30	-	-	3.9
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)										3.9		-	-	
集合住宅の評価										5.0		-	-	
4 効率的運用										3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング				W		H				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				W		H				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル											0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				W		R				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水									自動水洗、振音装置、節水型器具の採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用										3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無										3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無										3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減										3.4	0.63	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減				W		R				3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W		R				3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W		R				3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				W		R			教室床のビニルシート	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W		R				2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W		R			OAフロア、可動間仕切を採用	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避										2.7	0.22	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用										3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避										2.6	0.68	-	-	
1 消火剤				W						2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				W						3.0	0.33	-	-	
3 冷媒				W						3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境											0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮				W					ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物と同等	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮										3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止										3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制										3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減						R				3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制						R				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制						R			適切な量の駐車スペースを確保	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						R				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮										3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止										3.0	0.40	-	-	
1 騒音										3.0	1.00	-	-	
2 振動										-	-	-	-	
3 悪臭										-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制										3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制										3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制										3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制										3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制										3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のつらねに漏れる光への対策									「光害対策ガイドライン・広告物照明における配慮事項」の過半をみたく計画とした。	4.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策										3.0	0.30	-	-	